

# 『さっきゃま魂』

R4. 3. 24 第23号

発行人：校長 中山 末永

## 「持久走記録会」～喜びと悔しさ～

3月15日（火）持久走記録会を実施しました。3回目ということもあり、子ども達は、自分たちで整列したり、すばやくスタート位置に移動したりしながら、本番に向けての気持ちを少しずつ高めていきました。スタートからゴールする瞬間まで、子ども達は「自分自身の記録」と真剣に向き合い、最後まで諦めることなく走り抜くことができました。

「3秒も速くなってる。すごいなあ～。」

掲示板に貼られた「新記録証」を見ながら、ある子どもがつぶやきました。友達の成長を自分のことのように喜び、自分も頑張ろうという思いを強くしたのだらうと感じました。これまでもお伝えしてきましたが、「努力」と「結果」が、必ず結びつくとは限りません。しかし、「努力」と「成長」はしっかり結びついています。

今回、記録が伸びた「喜び」と記録に届かなかった「悔しさ」、そのどちらも子どもの成長に欠かせないものだと思います。

今後も、走ろう運動を充実させ、「自主」・「錬磨」の心に磨きをかけていきたいと思っています。



## 「卒業式」～40分にこめた思い～

3月18日（金）卒業式を実施しました。カウントダウンも「卒業式まであと00日」となり、とうとう8名の子ども達ともお別れだなあと複雑な思いで本番を迎えました。

コロナ禍のため、参加者を制限したり、内容の見直しを行ったことで40分間の式になりましたが、卒業生・在校生の思いを強く感じる事ができた感動的な式だったと思います。

様々な制限をしましたが、「卒業証書授与」については、時間をかけて行いました。主役である8名の卒業生一人ひとりの思いを大切に、逞しく成長した姿をしっかりと目に焼き付けたいと考えたからです。中央階段から上がってくる子どもの堂々とした姿、ステージで向き合ったときの引き締まった表情、証書を手にして熱く語った将来への決意、その一つ一つに子ども達の成長を感じ、感極まって目頭が熱くなっていました。

「だいぶん練習したんでしょね。」

式後に川端 PTA 会長から声をかけられました。もちろん、各学級での練習はしっかり行ってきましたが、全体練習は1回のみでした。卒業生・在校生、それぞれの成長を改めて実感できた瞬間であり「コロナ禍の卒業式」にも大満足しています。



## 「ありがとうございました。」

4年ぶりの崎山小学校勤務にわくわくしながらスタートした令和3年度も、あっという間に過ぎていってしまいました。コロナ禍の影響で、行事の延期や中止、実施内容の変更等があり、保護者の皆様には、大変ご迷惑をおかけしました。そのような学校の対応に対して、いつも温かいご理解とご協力をいただき、実り多い教育活動を実施できたと思っています。

次年度も、また新たな気持ちで子ども達と向き合い、「さっきゃま魂」に磨きをかけていきたいと思っていますので、今後ともよろしくお願い致します。